

Sasebo Kyosai Hospital Communication Paper

きょうさいだより

佐世保共済病院写真コンテスト 入選 諸岡 正代 【秋空】

理 念

博愛の精神
人の和
自己研鑽

目 標

1. 私達は、地域のみなさんのニーズに応え、信頼してもらえる医療を目指します。
2. 私達は、他の医療機関と共に、地域のみなさんの診療と健康増進に努めます。
3. 私達は、新しい医学、医療の知識と情報を取り入れ、常に自己啓発に努めます。
4. 私達は、それぞれが自己の責任を自覚し、安全な診療を目指します。
5. 私達は、病める人の苦しみや喜びを分かち合える心をもって診療に努めます。

I N D E X

- 精霊流し／外来化学療法室新設のご紹介.....P.1
- 第6回市民公開講座「小児の医療と育成」.....P.2
- 診療活動の現況～脊髄疾患～.....P.3
- 新採用医師の紹介／医療を支える人々～管理栄養士～.....P.5
- OBに聞く～きたやま泌尿器科～／TOPICS／編集後記.....P.6
- 外来診療担当表.....P.7



ごあいさつ

院長 福井 仁士



精霊流し

精霊流しは、8月13日に死者の霊魂（精霊）を迎え、15日の夕方に川や海に供養の舟（精霊舟）でお送りする行事です。その風景は、心に沁みる夏の風物詩といえます。現在では環境保全のため、精霊舟を川や海に流すことはできなくなりました。精霊流しは辞書ではショウリョウナガシとなっていますが、長崎県ではショウロウナガシといわれています。

長崎市や佐世保市では、初盆に際して大きな精霊船を作るならわしがあります。その様子は、さだまさし著の単行本“精霊流し”によく記載されています。九州のほかの地域では、大きな精霊船を作ることはないように思います。私が育った福岡県の筑後地方では、子どもの頃盆すぎになると団子や梨、りんごなどをのせた菰（こも）で作った小さな精霊舟が川に流れてきておりました。

写真は、本年1月に亡くなられた久保内科病院の久保謹平先生の精霊船です。大野地区の左石から名切公園まで運ばれる途中です。精霊舟は名切公園に集められ、参加者は爆竹を鳴らして御霊に合掌しました。謹平先生は私の母のいとこに当たり、私も長いお付き合いをさせていただきました。ご冥福をお祈りします。この写真は、久保家の御好意により掲載させていただきました。



外来化学療法室新設のご紹介

外来主任 ^{たしろ}田代 ^{さよこ}小夜子



今年7月に念願の化学療法室が中央処置室に新設されました。ベッド数は14床（一般点滴を含む）で7床はリクライニングシートを置いています。8月1日より稼動して、1日平均4～5人、多いときは7人の患者さんが治療を受けておられます。専任看護師1名とサポートする看護師1名の体制で業務を行なっています。薬剤は薬局でミキシングして化学療法室に届けてもらいますが、スムーズな連携プレーが必要です。新設されたばかりで、シス

テムの統一や各科のベッドの予約制導入など、検討する課題はまだ残されています。しかし、快適な環境が提供出来るようになり、患者さんの満足そうな顔を見ると、仕事へのモチベーションも高まります。加えて外来化学療法加算が算定出来るようになりました。加算に見合う良い医療ができるように、多くの患者さんから「共済病院で治療を受けてよかった」という評価を頂けるよう、今後もさらに励んでいきたいと思っています。治療でなくても一度化学療法室に足を運んでみませんか。



講演者と座長



講演風景

こどもにあたたかい心を育む

～シルクロードランニングジャーニー～

東京女子医大・母子総合医療センター所長

仁志田博司 先生

先生はローマから始まり長安に到るシルクロードを走りながら沿線の各地で新生児医療の視察、講演をする旅をライフワークとして行っており、映像を混えて東欧及び中央アジア諸国の旅の様子の御紹介がありました。

次いで、日本などの先進国での新生児・未熟児医療が救命という点で素晴らしく発達する一方で、母親と赤ちゃんがNICU（新生児集中治療室）で隔離される為に母子関係の確立が阻害され「愛情遮断症候群」と呼ばれる虐待などの新たな問題が起こっています。新生児医療の現場での過剰な痛みやストレスが、子供の高次脳機能の正常発達を妨げ、行動を抑制することなしに本能的な反応に結びつく「切れやすい子供」の原因となっているなどの科学的根拠に基づく考察を示されました。先生のテーマである「あたたかい心」はどう育まれるかという点で聴衆に感銘深い内容でした。

あたたかい心を育む育児への提言

～Loving HUG（抱きしめ）～

聖マリア病院母子総合医療センター統括

橋本武夫 先生

医療の進歩により、日本は世界で最も赤ちゃんの死なない国となりました。しかし一方で虐待を含め、子供にまつわる社会問題は急増しています。その対策は短絡的なものではなく、乳児期の母と子の絆までたどりつく必要があります。先人の文化からも、母、育児、教育の原点はおっぱいにたどり着くことを力説され、乳児期の育児は、しっかり抱いて・語りかけて・おっぱいを飲ませるが3原則であることを示されました。

佐世保市の子ども子育てについて

～行政の立場から～

佐世保市 光武 顕 市長

光武市長は、行政の立場から佐世保市における小児育成事業を話されました。特に、障害のある子ども、ない子どもすべてを対象とした子ども発達センターについて、その設立の理念、設立までの経過や運営について話されました。市長さんが手がけられた小児の育成事業はいろいろありますが、子ども発達センターの設立はもっとも評価される事業であると思われます。小児育成支援の事業には、行政の支援が重要であることを示されたと思います。



はじめに

日本人の平均寿命は年々伸び続け、ますます高齢者人口が増えてきています。高齢化とともに加齢による脊椎疾患も増え続けています。医学の発展により癌や心臓病の治療が進歩し患者のQOLも向上してきたため、たとえ高齢者でも活動性を維持するための治療が要求されています。本編では高齢者に多い腰部脊柱管狭窄症を中心にお話いたします。

腰部脊柱管狭窄症

腰は字の如く身体の要であり、起立時運動時には常に大きな力が腰椎（腰骨）に加わっています。腰椎の加齢による変形は早くは20代から始まり年々進行していきます。体力が下降してくる50代以降になると腰痛などの自覚症状が顕著となってきます。骨の変形に椎間板（軟骨）の断裂や靱帯の肥厚が加わると脊髄神経の圧迫（図1左）による坐骨神経痛が起こります。

その症状は、殿部から大腿が痛くて腰を伸ばして歩けない、歩くと脚がしびれる、触る感覚が鈍い、などです。動脈硬化による血行障害でも同様なしびれが起こるため、その症状が神経由来か血管由来かの鑑別は重要です。高齢者では両者合併していることもあり、正確な診断・治療のためには専門医への受診が望まれます。



図1左(手術前)

脊髄神経（中央の白い部分）が周囲の組織からの圧迫を受けて小さくなっている。



図1右(手術後)

圧迫が消失し、脊髄神経が大きく膨らんでいる。

検査はレントゲンの他にMRIが有用です。MRI画像（図2）は神経圧迫の状態をきわめて正確に描写しますので、病状の程度を客観的に把握することが可能です。治療は軽症例には鎮痛剤、血管拡張剤などの投薬、神経ブロック

注射、温熱治療、運動療法などを行います。重症例では筋力低下や筋萎縮、神経麻痺が永続しますので早期に手術を行います。軽症例でも経年的に重症例へと進行することもあるので定期的な診察が必要です。

手術は以前では大きく骨を切除する方法がとられてきましたが、最近ではなるべく小さな手術で病的な部分だけ切除する低侵襲な手術（図1右）へと変わってきました。当科では手術の翌日より歩行とリハビリを開始し、3週間で退院可能です。手術成績もよく極度な重症例でなければ痛みや神経の回復も良好です。最



図2

脊髄神経が4カ所（矢印）でくびれている。

近徐々に手術患者も増えてきて、たとえ80代後半でも心肺機能に問題なければ充分手術による回復が期待できます。

腰部脊柱管狭窄症の中には進行性の迂り症(骨のズレ)や側弯症(曲がり)を合併している場合があります。その場合には変形予防のために脊椎固定術(図3)が必要となりますが、現状では手術時間が長く出血も多いのが問題です。固定術の手術侵襲を少なくして患者の体力的負担を減らしていくのが今後の課題です。



図3

金属性のネジで骨を強固に固定する。

腰椎椎間板ヘルニア

比較的若年者の腰痛や坐骨神経痛の原因疾患として多いのが椎間板ヘルニアです。腰部脊柱管狭窄症と異なり急に発症するのが特徴です。ほとんどが安静や保存的加療で治癒しますが、重篤例では手術をします。手術成績は極めて良好で、術後3週間で退院できます。

昨今、内視鏡を使った手術が試みられています。これらの内視鏡の操作には熟練を要し、まれに未熟な手技による合併症を見聞します。当科では熟練者がまだいないために内視鏡での手術は行っておりません。内視鏡下手術が安全で有効な手段として定着するのはまだまだ当分先のようにです。

おわりに

佐世保、県北地区は高齢化が進んでいるものの農業や漁業に従事する元気なお年寄りが多いのが特徴です。加齢とともに病気が増えるのは宿命ですが、病気と付き合いながらもその患者に合った治療を続け、場合によっては早期に手術を勧めてQOLを落とさないように努めるのが臨床医の役割です。そのためになるべく低侵襲な手術で合併症を減らし、短期入院で長期臥床による認知症を予防するのが我々整形外科医の使命と考えています。

診療案内

月～金曜／毎日午前中外来診療しています



診療中の久我医師

新採用医師の紹介

①出身大学・卒業年度 ②在籍医局 ③専門領域 ④出身地 ⑤趣味、その他一言



た うら まさ ひこ
田浦 正彦 [耳鼻咽喉科]

- ①九州大学 平成12年卒
- ②九州大学耳鼻咽喉科
- ③耳鼻咽喉科一般
- ④熊本県
- ⑤剣道、日本泳法（小堀流踏水術）



お やま だ つよし
小山田 剛 [眼科]

- ①福岡大学 平成15年卒
- ②福岡大学眼科
- ③眼科一般
- ④宮崎県
- ⑤佐世保は今回初めてやってきました。まだよくわからないことだらけですが、宜しくお願いします。眼科のことわからないことがありましたら、いつでも連絡して下さい。

医療を支える人々 ～管理栄養士～

ご か ひ と み
五家 斐都美

給食課は管理栄養士4名、事務員2名、調理師17名、合計23名で構成されております。毎日、一般食、特別食と患者さんにあわせて900～1000食提供しております。管理栄養士の仕事は主に給食管理と栄養管理に分かれ以下に内容を示します。



給食管理

給食はまず第一に喫食者に応じた栄養素量の確保に努める必要があります、このことが給食担当者、栄養士の本来の仕事とされます。患者さんは一般健康人に比べ適応能力が低下し、適正な栄養といわれる範囲も狭いため、制限をうけることが多く、また患者さんの中には食欲不振や消化器系の疾患のために経口的な摂取ができない方も少なくありません。従って、病院給食においては治療の一環として、通常の食生活における以上の重要な役割を持ち、患者さんの摂取しやすい形態（軟食、流動食、経腸栄養食）で提供することが基本になると考えます。また、年に2回以上は嗜好調査を行い献立の見直しにも力を入れております。

栄養管理

個人栄養指導

入院、外来の患者さんを対象に糖尿病、腎臓病、肝臓病、胃切除後など病態にあわせた栄養指導を行っております。また入院中に特別食を喫食されている患者さんに関してはベッドサイドによる食事の説明を行なうようにしております。

集団栄養指導

管理栄養士が関わる集団指導には糖尿病教室、母親教室、腎臓病教室、人間ドックがあり、フードモデルなどを利用し説明を行っております。

NST

当院では、平成16年12月にNST（Nutrition Support Team: 栄養サポートチーム）が稼働し栄養管理を必要とする入院患者さんを対象に静脈栄養や経管栄養ばかりでなく、病院食を含む経口的栄養剤投与も栄養管理を行っております。

現在はNSTも細分化されPEG（経皮内視鏡的胃瘻造設術）チーム、嚥下リハビリチーム、簡易懸濁法チームなどを結成し栄養管理の質を高める目的で勉強会を開催しています。まだまだ発展途上ではありますが、高いレベルの栄養管理を提供できるよう管理栄養士をはじめスタッフ一同日々の業務に取り組んでいきます。



NST回診の様子



きたやま泌尿器科

院長 来山敏夫先生

病診連携の中核を支えて下さっているOBに取材するシリーズの第6回は、来山泌尿器科をお忙しい中取材させていただきました。

OB
に聞く **Part. 6**

Q まず自己紹介をお願いします。

A 佐世保の天神町の出身で佐世保南高から長崎大学医学部をS55年に卒業しました。共済病院にはH8年から10年まで2年4ヶ月在籍し、引き続きこの地で開業しました。

Q 診療内容の特色は？

A 9床の入院ベッドと15台の透析装置を備え、現在44名の方の透析を行っています。その他にシャント手術や前立腺の膀胱鏡視下手術、レーザー治療などを行っております。悪性腫瘍などの重症例は主に共済病院泌尿器科にお願いしています。

Q どのような点に力をいれていますか？

A 当院は厨房のスタッフを5名擁して、入院・通院透析患者さんに食材を吟味したおいしい食事を提供するように努めています。健康回復には何といても食事が一番大切ですから。

Q 共済病院への御注文は？

A 腎臓内科の原口先生をはじめ循環器内科の先生方にも懇切に対応して頂いており特に不満はありません。ただドクターの数が全体に減っているようで一寸心配です。地方都市病院の宿命でしょうか。頑張ってください。



* 患者さんへの細やかな心配りと癒し系の来山先生の御人柄が相まって、院内には穏やかな雰囲気があふれていました。

TOPICS 納涼会

医局長 林田一洋

今年の医局主催の納涼会は、技師、薬剤師、事務系の職員をお招きして総勢111名で8月10日に行われました。昨年同様天候に恵まれ、西海パールシーリゾートの納涼船パールクイーンを借り切って九十九島遊覧のサンセットクルージングを楽しむことができました。午後6時30分に出航し、空調の効いた部屋の中でビールと美味しい食事を堪能し、穏やかな波間を流れるように進むデッキから九十九島に沈む美しい夕日を楽しむことができました。皆大満足の時間を過ごすことができ、今年の暑い夏を乗り切る活力を得た楽しい一時でした。



編集後記

暦の上では秋になりましたが、夏からの暑さも疲れも残っているこの時期。「食欲の秋」という甘い言葉に惑わされず、まずは休息・休養をしっかりとって、「スポーツの秋」を楽しめるように体力を蓄えたいと思います。患者さんと関係機関の皆様方には「実りの秋」となるよう、お祈りいたします。

編集委員 東入来 和歌子

科	役職	医 師 名	月		火		水		木		金		備考(専門分野・特徴など)
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内 科	部長	林 田 一 洋			●		●				●		肝臓・消化器疾患
	医長	松 見 里 美	●				●				●		消化器疾患
	”	野 口 誠 司	●		●			●					肝臓・胆嚢・膵臓疾患・消化器疾患
	”	金 子 武 生	●				●				●		循環器疾患
	”	藤 澤 伸 光	●				●				●		呼吸器疾患
	”	村 上 謹 士 郎			●				●		●		循環器疾患
	”	久 間 文 明			●		●		●				循環器疾患
	”	原 口 総 一 郎	●						●		●		腎臓疾患
	医員	松 永 圭 司			●		●				●		消化器疾患
	”	古 山 和 人			●				●				呼吸器疾患
	”	有 馬 誠 一 郎	●						●				消化器疾患
	”	宮 原 貢 一	●						●				消化器疾患
	”	山 元 美 美			●		●						腎臓・循環器疾患
糖尿病教室					●		●		●		●		※詳細は内科外来へお尋ね下さい。
小児科	部長	岡 尚 記	●		●						●		小児一般
	医長	合 田 裕 治	●				●		●				小児アレルギー疾患
	医員	池 田 修 三			●				●		▲		気管支喘息
	”	蓮 把 朋 之	▲				●				●		※▲は未熟児回診後の診療のため、開始時間が遅れます。
	乳 児 健 診					●							火曜PM1:00～
	慢 性 外 来							●					水曜PM2:00～
外 科	喘 息 外 来									●			木曜PM2:00～
	外科顧問	松 永 章							●				一般外科・内視鏡下外科・消化器外科
	部長	松 本 敦	●				●		●				一般外科・内視鏡下外科・消化器外科
	医長	澤 田 健 太 郎	●				●						一般外科・血管外科
	”	川 畑 方 博			●						●		一般外科・腹部エコー
	”	原 田 洋			●						●		一般外科・消化器・乳腺外科
	医員	勝 本 充	●				●						一般外科・消化器外科
脳神経外科	”	磯 邊 太 郎							●				一般外科・消化器外科
	院長	福 井 仁 士	●				●						脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、脊椎外科
	部長	金 子 陽 一							●		●		小児の神経外科、顔面痙攣、三叉神経痛の外科
神経内科	医員	井 上 大 輔	●						●				手術、顔面痙攣のボツリヌス注射療法
神経内科	医員	高 倉 由 佳									●		神経内科疾患一般(要予約)
整形外科	診療部長	萩 原 博 嗣	●				●				●		骨関節疾患全般
	医長	久 我 尚 之			●		●		●				・股・膝関節の関節形成術、人工関節置換術
	”	寺 本 全 男	●						●		●		・膝・肩・手・肘の鏡視下手術
	医員	木 村 慎 吾			●				●		●		・脊椎外科、腰部疾患手術
	”	平 本 貴 義	●		●						●		・肩・手の外科
	”	矢 野 英 寿	●		●		●						・リウマチ、スポーツ整形外科、足の外科など
皮膚科	”	宮 岡 健					●		●				・骨・軟部腫瘍
	医長	尾 形 美 穂	●	●	●		●		● (●)		●		湿疹、アレルギー性皮膚炎、皮膚感染症、爪・毛疾患
	医員	佐 田 明日香	●	●	●		●		● (●)		●		皮膚小手術(火・水・金の午後) ※木曜の午後は隔週交代で診療
泌尿器科													
	部長	山 田 潤	●				●				●		尿路結石、尿路腫瘍、前立腺疾患
	医長	犬 塚 周			●				●		●		体外衝撃波結石破碎術(ESWL)
産婦人科	”	高 橋 元			●		●						尿失禁、尿路感染
	医員	中 村 貴 生	●						●				
	副院長	木 寺 義 郎	●				●				●		産科・周産期医療、不妊症・内分泌疾患
	医長	鶴 地 伸 宏	●		■		●		●				体外受精・胚移植術、腹腔鏡下手術
眼 科	”	新 谷 可 伸			●		● ■		■		●		更年期・婦人科疾患
	医員	山 口 明 子	●		●				●		■		※●:婦人科診療日 ■:産科診療日
	医長	宇 野 英 明	●		●		●	●	●		●		白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、網膜剥離手術、眼瞼下垂手術、翼状片手術、レーザー光凝固術、眼瞼痙攣のボツリヌス注射など
耳 鼻 咽喉科	医員	小 山 田 剛	●		●		●	●	●		●		※水曜の午後は術前検査と特殊再来(要連絡)
	医長	佐 藤 公 治	●		●		●		●	●	●		アレルギー性鼻炎のレーザー治療
放射線科	医員	田 浦 政 彦	●	●	●		●		●		●		小児の耳鼻咽喉科疾患
													耳・鼻・咽喉頭・頸部などの手術
麻 酔 科	医長	野々下 政 昭											MRI、CT、RI、血管造影、超音波検査
	医員	吉 田 成 吾											消化管造影、内視鏡検査
													内視鏡下手術(ポリプ切除)
歯 科 口腔外科													
	医長	深 野 拓	●				●		●				※月～金午前バイン外来
	”	吉 村 真 紀			●				●				※月～金午後は手術麻酔
	医員	木 本 文 子			●						●		
歯 科 口腔外科	”	別 府 幸 岐	●								●		
	医長	川 村 英 司	●	●	●	●	●	●	●		●	●	歯科・口腔外科(紹介患者のみ新患受付) 顎変形症(外科的矯正)・インプラント・歯牙移植・顎関節症・マウスピースなど